



ほけんだより

2022年 2月
沼袋西保育園・看護師

都内はオミクロン株の急拡大を受け、まん延防止等重点措置の適応となりました。近隣の保育園や学校でも相次いで感染報告があがっております。皆様のご協力のもと、幸いにも当園では休園の事態に至っておりませんが、いつそうなってもおかしくない現状です。職員は一層の感染予防に努めてまいります。今後ともよろしく願いいたします。お子様やご家族の体調不良や PCR 検査受診の際には、必ず園にお知らせください。ご自宅で様子を見ていただく場合もあることをご理解いただきたいと思います。

★乳幼児のやけど事例における受診率は大人の約2.6倍！重症化に注意！！

- ・乳幼児は皮膚が薄いことや体が小さく体表面積が少ないことから、やけどが重症化しやすく注意が必要です。
- ・低温やけどは、じわじわと皮膚の深いところにまで達するので、特に子どもは気づかないうちに重症になってしまうことがあります。皮膚の損傷を受ける温度と時間の目安は、44℃では3～4時間、46℃では30分～1時間、50℃では2～3分です。水で冷やしたりするだけでなく、必ず受診してください。
- ・子どもの成長発達に合わせ、事故予防につとめることがやけどを防ぐこととなります。

★こんなところに注意！乳幼児事故防止のポイント

食べ物や、飲み物、熱湯に注意

- ・必ず大人が温度を確認！！
- ・手の届かないところに置く

炊飯器、ポット、フライパンなど

- ・成長に伴い興味や行動の変化がある
- ・蒸気が出ない、お湯がこぼれない等、やけど防止対策がされている製品を選ぶ

湯たんぽ・電気毛布等の低温やけど防止策

- ・肌に直接触れさせない
- ・同じ箇所に長時間あてない
- ・就寝中には布団から出す

やけどの応急手当 すぐに「冷やす」ことが重要
流水で最低5～10分、できれば15～30分

- やけどした部分を流水で冷やす
- 水の勢い(水圧)は強くしない
- 服の上から熱湯などがかった場合、服の上から流水などで冷やす。
- ※無理に服を脱がせると皮膚がはがれることがあるため注意が必要です。
- 流水が当てられない目や耳などは氷や保冷剤を包んだ冷たいタオルで冷やす。
- 水ぶくれは破れないようにし、清潔なガーゼで保護して受診する。

★すぐ受診（皮膚科か形成外科へ）

- 手や足の指(皮膚がくっついてしまうことがある)
 - 陰部のやけど
 - 水ほう(水ぶくれ)ができたやけど
- ※水ほうがつぶれると感染を起こす恐れがあります。

★診察時間内に受診

- 受傷した範囲が狭い
- 皮膚が赤くなっているのみ

※受診する場合は受傷部位に軟膏はつけずに受診しましょう。



全身・広範囲・顔面の場合は直ぐに救急車を呼びましょう。

2月の保健行事 2日(水) 身体計測：幼児クラス 4日(金) 身体計測：乳児クラス
10日(木) 0歳児健診 14:30～ 24日(木) 0歳児健診 14:30～